

## ～ 地域で、お能を学ぶ ～

1月26日（水）、金井中学校1年生52名が金井能楽堂で能を体験しました。

この取組は、佐渡の地に能が定着した歴史や経緯を知り、保存発展させようとする地域の人々の思いに触れることを通して、夢や希望を持って生きることの大切さや佐渡への誇りを感じ取ってもらおうと10年前から金井中学校で実施されているものです。

生徒たちの指導にあたったのは、「佐渡の能を識る会」の関係者です。

事前学習で佐渡の能の概要について学んだ生徒たちは、最初に講師たちが舞う「羽衣」を鑑賞しました。

その後、6つのグループに分かれて「謡い」や「太鼓」などをそれぞれ体験しました。

足袋を履いて能舞台に上がった生徒たちは、扇子の扱い方と足の運び方について講師から指導を受けました。講師から「足を踏み出す時はかかとから先に着いて、その後につま先を置いてください。」と声がかかると、生徒たちは、言われた通り片足ずつゆっくりと実践して演者の気持ちになっていました。

佐渡の能を識る会の代表、近藤利弘さんは体験を終えた生徒たちに、「日本と言えば『お能』。『お能』と言えば佐渡です。そして、金井と言えば『世阿弥』です。佐渡には素晴らしい文化があることを確認して、世界に発信してください。」と話していました。

生徒からは、「体験を通して、能には日本人の心が表れていると思いました。神聖な場で貴重な体験をさせていただきありがとうございます。ありがとうございました。」と講師の皆さんにお礼を述べていました。



## 佐渡の文化・芸能を支援する、賛助会員を募集しています!!

佐渡文化財団では、研究・調査、文化・芸能の普及活動等をご支援いただける賛助会員を募集しています。賛助会員には特典として、ニュースレターなどの情報提供や特製2022カレンダーを贈呈いたします。

会費は個人1口2,000円、団体・法人1口5,000円です。何口でも、お申し込みいただけます。ご賛同いただける方のご支援をお願いいたします。



## 「第5回 佐渡民謡の祝祭」の中止について

今回で5回目となる「佐渡民謡の祝祭」は、アミューズメント佐渡を会場に開催する予定でしたが、市内における新型コロナウイルス感染拡大により、中止となりました。

無観客での実施も視野に入れ、出演団体の皆様は当日に向けて、新たな演目に挑戦したり、チームを結成して民謡披露に取り組むなど一生懸命練習に励んでいただいておりますが、市内の感染状況を考慮し判断させていただきました。

なお、公演チケットをご購入された方は、佐渡博物館にてチケット料金の払い戻しを令和4年3月31日まで行っておりますので、ご確認願います。



## ～ 健康推進員が、わらの鍋敷き作りに挑戦 ～

2月1日(火)、羽茂地区公民館で、佐渡市健康推進協議会羽茂支部の推進員が「鍋敷き」作りワークショップを行いました。

わらで縄を縛うのは初めてという参加者がほとんどでしたが、鍋敷きの土台作りから縄織い、縄を絡げていく一連の作業工程を体験し、全員が鍋敷きを完成させることができました。

作業中には「ちょっとこすり合わせるだけで縄ができるなんてすごいよなあ。」といった感想もあり、生活スタイルが変わった現代でも、昔の生活から学ぶことはまだまだ多くあるようです。



## 【イベント情報】

新潟大学人文学部・佐渡市教育委員会連携協定事業のシンポジウムが開催されます。

■「ビーズがつなぐ弥生時代の佐渡と地域」

日時：2022年2月26日(土) 13:00～16:00 (12:30開場)

会場：佐渡島開発総合センター3F大集会室

定員：80名(入場無料)

お問い合わせ：佐渡博物館 電話0259-52-2447



## ～ 中学生が、和楽器に触れる ～

1月14日(金)、畑野中学校で佐渡おけさの授業が行われました。

この授業は、昨年度から行われており今年で2回目で、地元の民謡団体「佐渡みどり会」の皆様が講師となって、1・2年生の指導にあたりました。

今回挑戦したのは、三味線と締太鼓で、各パートごとに分かれて練習が始まりました。

講師たちは、太鼓では”強く叩きすぎないようにバチは端の方を軽く握る”、三味線では”左手を離しても三味線が倒れないように構える”など、丁寧にアドバイスをしていました。

最初は「難しい!」といった感じの生徒たちも、生徒同士で教えあったり、何回も反復練習をしたりして後半には綺麗な音が出るようになりました。

最後は、両パート集まっての合奏です。全員で演奏する「佐渡おけさ」は、そろった音が教室に響いていました。

みどり会の本間会長は、「子どもたちが佐渡の文化に触れることが大事。こういった授業が毎年続いて、次の世代へ継承されていくと嬉しい」と話していました。



○和楽器を貸し出しています。和の音に触れてみませんか。

○民謡など語り、指導にあたる講師を派遣しています。

○民謡や鬼太鼓などで培われた民芸品などのアイテムを通信販売しています。

